

平成27年度 再々評価調書

1 事業概要

事業名	都市計画道路枚方藤阪線 街路事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 街路建設グループ（連絡先 06-6944-9276）	
事業箇所	枚方市西禁野2丁目～禁野本町1丁目	
再々評価理由	再評価後5年間の経過した時点で継続中	
事業目的	都市計画道路枚方藤阪線は、京阪枚方市駅へのアクセス道路であり、自動車、歩行者ともに交通量が多いにもかかわらず、歩道が未整備であるため、交通事故や慢性的な交通渋滞の要因となっていた。このため、過去に整備した区間に引続き、本区間の自転車歩行者道の設置及び交差点改良を行うことで歩行者、自転車等の安全を確保するとともに、交通渋滞を緩和することを目的とする。	
事業内容	道路築造 延長: 0.6 km 幅員: 16.0m ・車道: 2車線 (3.0m×2) ・自転車歩行者道: 両側 (3.5m×2)	
事業費 ()内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費: 約27億円 (約24億円) [国: 14.8億円、府: 12.2億円] (内訳) 調査費等 約1億円 (約1億円) 用地費 約18億円 (約16億円) 工事費 約8億円 (約7億円)	【工事費の内訳】 道路築造工 約6.4億円 (約5.6億円) 舗装工 約1.6億円 (約1.4億円)
事業費の変更理由	【事業費変動要因の状況】 ・用地費 物件補償費について、再評価時は概算額であったが、その後物件調査を実施した結果、増額となった。 ・工事費 用地買収状況に応じて、仮設工法及び現道切替等の工法変更が必要となり増額となった。	
維持管理費	約320万円/年 (道路部: 33万円/千㎡・年) (過去5年間の実績から算出)	

2 事業の必要性等に関する視点

	【事前評価時点 H16】	【再評価時点 H22】	【再々評価時点 H27】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	【現道の状況】 枚方藤阪線 ・自動車交通量 19,639台/24時間 ・歩行者自転車交通 量: 3,252人/24時間 (H11交通センサス) 【沿道公共施設】 ・枚方市立市民病院	【現道の状況】 枚方藤阪線 ・自動車交通量 18,046台/24時間 ・歩行者自転車交通 量: 4,567人/24時間 (H17交通センサス) 【沿道公共施設】 ・枚方市立市民病院 ・関西外国語大学	【現道の状況】 枚方藤阪線 ・自動車交通量 14,378台/24時間 ・歩行者自転車交通 量: 5,166人/24時間 (H22交通センサス) 【沿道公共施設】 ・市立ひらかた市民 病院 ・関西外国語大学	自動車交通量は減少しているが、歩行者自転車交通量は増加している。
地元等の 協力体制等	地元市から早期整備の要望がある。			—
	【事前評価時点 H16】	【再評価時点 H22】	【再々評価時点 H27】	【変動要因の分析】
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C= 4.65 B=76億円 C=16億円 【算出方法】 国土交通省「費用便益 分析マニュアル」(平 成15年8月) 【受益者】 道路利用者	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C=2.32 B=53億円 C=23億円 【算出方法】 国土交通省「費用便 益分析マニュアル」 (平成20年11月) 【受益者】 道路利用者	【効果項目】 ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 【分析結果】 ・B/C=1.78 B=52.7億円 C=29.6億円 【算出方法】 国土交通省「費用便 益分析マニュアル」 (平成20年11月) 【受益者】 ・道路利用者 ・沿道住民	完成予定年度 (H27→H30)、事業費、評価基準年次 (H22→H27)の変更により便益・費用に変動が生じている。

事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	【安全・安心】 ・歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 ・災害発生時の緊急輸送路、避難路の確保 【活力】 ・物流の効率化の支援 ・地域間交流連携の強化 【快適性】 ・十分な幅員が確保された歩道による快適性の向上 【受益者】 ・道路利用者 ・沿道住民			—
事業の進捗状況 <経過> ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	①平成17年度 ②平成17年度 ③平成22年度	①平成17年度 ②平成17年度 ③平成27年度	①平成17年度 ②平成17年度 ③平成30年度	・用地買収に日数を要したため、事業期間を延伸する。
<進捗状況>	・全体 0% (0億円/18億円) ・用地 0% (0億円/13億円) ・工事 0% (0億円/4億円)	・全体 56% (13.4億円/24億円) ・用地 78% (12.5億円/16億円) ・工事 1% (0.2億円/7億円)	・全体 85% (23億円/27億円) ・用地 86% (15.5億円/18億円) ・工事 81% (6.5億円/8億円)	—
事業の必要性等に関する視点における判定(案)	・必要性に変化はないため、事業を継続する。			

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点における判定(案)	・用地は 86% 取得済み、残り1件である。 ・本整備区間のうち東端から約 260m 区間は、平成 26 年度供用済み、西端から約 200m 区間は、来年度供用予定であることから事業を継続する。
-----------------------	--

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点における判定(案)	・用地については、 86% 取得済み、本事業区間 600m のうち東端から約 260m 区間は供用済み、西端から約 200m 区間は、来年度供用予定であることから、代替案立案の余地はないため、事業を継続する。
------------------------------	--

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	・周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響を与えることは無い。
前回評価時の意見具申(付帯意見)と府の対応	—
その他	【上位計画】 大阪府都市整備中期計画(案) H24.3

6 対応方針(原案)

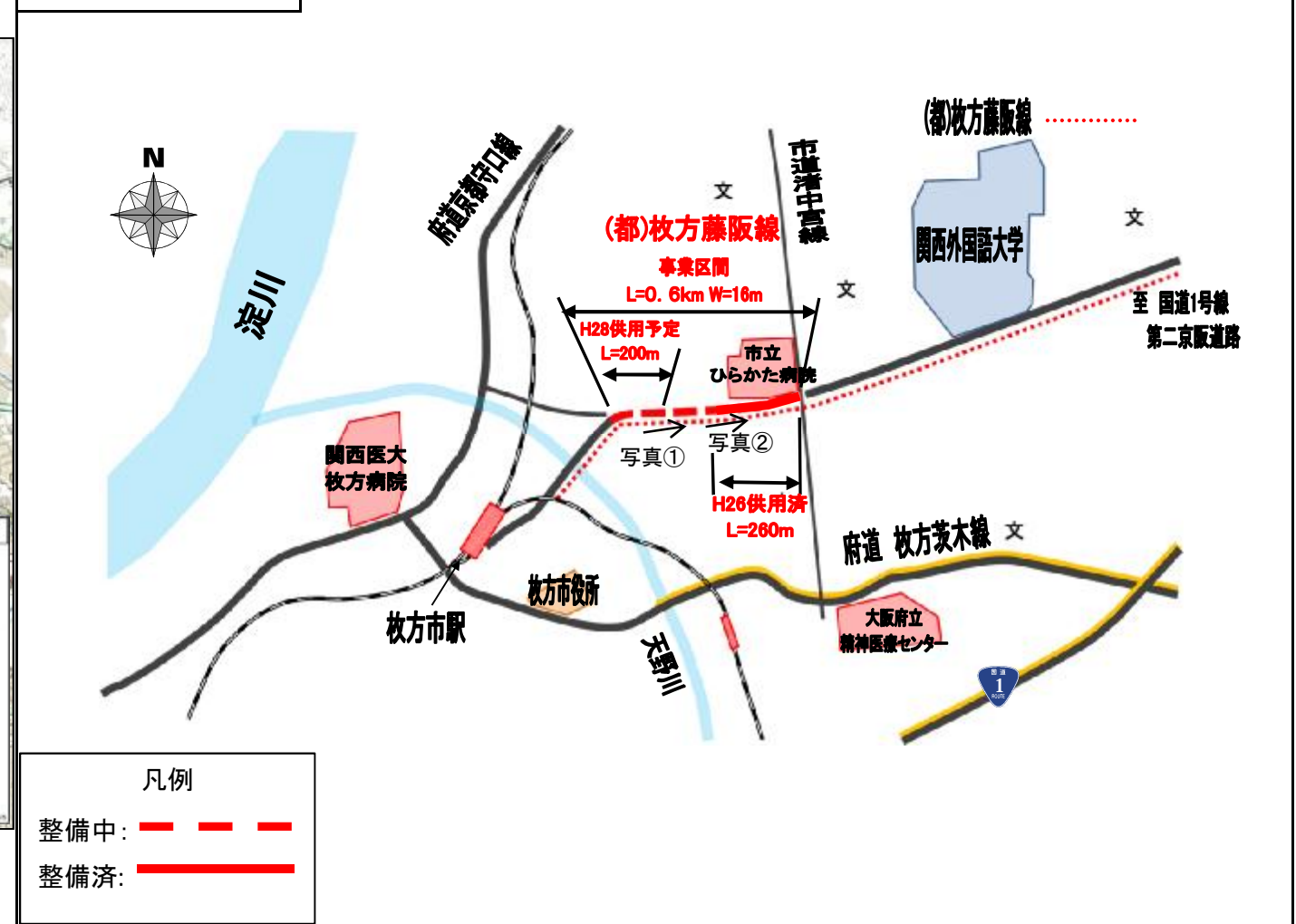
対応方針(原案)	○事業継続 <判断の理由> ・用地買収において 86% 、工事において 81% が完了済みである。 ・本整備区間のうち東端から約 260m 区間は供用済み、西端から約 200m 区間は来年度供用予定、平成 30 年度に完成予定であり、必要性に変化はないことから事業を継続する。
----------	--

平成27年度 再々評価 (都市計画道路 枚方藤阪線 街路事業)

事業箇所図



平面図



凡例
 整備中: ---
 整備済: ——

現況写真

写真①



写真②



断面図

